

1 過去7年の状況

(1) 大学進学率及び国公立大学進学数

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
大学進学者の割合	9.9%	7.3%	5.8%	6.8%	15.3%	5.1%	4.7%
国公立大学	1	1	0	0	2	0	0

(2) 専門学校を含む進学傾向について

進学者の多くは指定校推薦及びA0入試で進学する場合が多い。

早期の合格決定を求める傾向にあり、目標とする学校に入るための努力より現状成績で入れる学校を探す、という状況も見受けられる。

(3) 県外就職者の減少、地元志向

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
県外就職者の割合	29.7%	27.2%	11.0%	11.7%	8.6%	10.5%	*12.5%

*全体の就職数が前年より減少した影響

2 本校の取り組み（キャリア教育グランドデザインをもとに）

(1) 学びを深める時間

①朝学習

- ・規則正しい生活習慣と学習習慣を身につけさせる。
- ・継続的に学習することの意義を実感させる。

②月1回の学習会と長期休業中の補習と校外模試の活用

- ・自分から勉強する、という意欲を引き出す。
- ・少し高いレベルの学習に挑戦し、ベネッセ基礎力診断テストに取り組ませ「できた」という実感を持たせる。

具体的な行動と現状把握が生徒の自信を喚起し、目標に向かって進もうという意欲を引き出すのではないか。

(2) 将来を紡いでいく時間

1年次 地元企業見学

2年次 インターンシップ（R2年度、全体は中止したが春休み期間中に希望者実施）

3年次 2年次後半から、3年次ゼロ学期とした進路指導

地元企業理解が進み、就職先を選ぶ上で大きな影響を与えているのではないか。

3 本校の課題

(1) システムの整備

- ・良い指導だから行う→業務が増える→質が落ちる にならないよう、システムの整備を行うこと。
- 例えば、発表の機会を一つにまとめる。

（昨年は集会の制限も有り、年次毎のキャリア教育発表会として1年次：ライフプラン、2年次：3年次生の体験発表、3年次：進路講話会と別々の開催となった）

- ・朝学習を活用し、模試へのモチベーションを上げる等各指導の連動性を高めること。
- ・模試の結果を反映させた面談指導を充実させ、目標を明確化させること。

(2) 医療従事者希望への対応

県立十日町看護専門学校の令和2年4月開校など、地域で看護学校が増加。本県の課題である医療従事者を増大させるため、情報収集と適切な対応を図ること。

～ご家庭へのお願い～

①学校・生活面において

- (1) 1年間の欠席日数3日以内、3年間で欠席日数9日以内とする。
- (2) 遅刻・早退をせず、時間を守り、規則正しい生活を送る。→8：30までに登校し朝学習にとりくむこと。
- (3) 学業、部活動、生徒会活動に力を入れる。
 - ・ 評定平均は進学だけでなく就職にも関係あり → 平均3.5以上（5段階評定）を目標に
これは奨学金の無償貸与の基準の目安でもあります。
 - ・ 部活動3年間継続は最大のアピール
- (4) 選択科目に注意
安易な選択は進路選択の幅を狭めます。

② 家庭において

- (1) 生徒と保護者が進路について話をするようにし、子どもまかせにしない。
もし生徒が就職希望なら
昨年度、十日町で求人200人分（対前年－20%） → 2～3会社見学 → 8月中旬決定
わずかの時間の間に、選択！（全体的にサービス関連、製造等の減少が多かった）
- (2) 家庭の経済状況を、早めに子どもに伝える。
借りの奨学金（借金）の利用は慎重に考える（学校を卒業→就職・・・順調にいかなくなった場合、返済が難しくなった場合もしっかり考えておく）
各学校で返済不要の奨学金、特待生制度を用意しているものを利用

以上、昨年度までの様子及び今年度当初の計画に基づき記載いたしましたが、
昨年同様、現在も新型コロナウイルス感染拡大の影響が懸念されます。
この状況で、今後予定している進路指導に関わる内容の変更も予想されます。
変更があれば決まり次第お伝えする予定です。